

教科内容

1年生

科目名	生物	授業担当者	仲盛 政江
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
≪学習目標≫ 生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。			
≪到達目標≫ 1、生命の最小単位である細胞の構造と機能について理解する。 2、細胞のさまざまな活動について理解する。 3、DNAとタンパク質の合成について理解する。 4、刺激の受容と反応の仕組みについて理解する。 5、内部環境を保つ仕組みについて理解する。			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	・細胞をつくっている主な物質の構造とはたらきについて		
2	・細胞小器官の構造と機能について		
3	・細胞のさまざまな活動(酵素)		
4	・細胞のさまざまな活動(ATP・細胞呼吸)		
5	・ヒトの組織・器官		
6	・DNAの構造とセントラルドグマについて		
7	・刺激の受容と反応(感覚器)		
8	・神経系による刺激の伝達		
9	・中枢神経と末梢神経		
10	・内部環境を保つ仕組み(血液・リンパ液・組織液)		
11	・内部環境を保つ仕組み(内分泌腺)		
12	・自律神経		
13	・自律神経とホルモン(血糖値・体温調節しくみ)		
14	・生体防御		
15	・まとめ		
≪評価方法≫ 定期試験、小テスト、課題、出欠状況などで総合的に評価			
≪教科書・参考文献≫ 教科書:最新歯科衛生士教本「生物学」(医歯薬出版) 参考書:ダイナミックワイド図説生物 (東京書籍)			
≪実務経験≫ 理科教諭として、高等学校(6校)に勤務、主に生物を担当。これまでの授業経験をもとに生物の講義を行います。			

科目名	化学	授業担当者	兼島 浩
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>近年、科学技術の発達はめざましく、日常生活をはじめ医療分野で大きく貢献している。本科目「化学」では、物質の基本的構造、化学的性質や反応など様々な現象を考察し、化学の役割や利用について学ぶ。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>物質の性質や化学反応など化学の基礎知識を理解するとともに、歯科で扱う化学物質や生化学など歯科医療に関連する分野について知識を深める。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	・物質とは何だろう		
2	物質の構造、原子、分子、電子配置、周期表、化学結合		
3	・気体について知ろう		
4	気体の法則、空気の成分、医療・生活への応用		
5	・物質が水に溶けるとは		
6	濃度の表し方、コロイド溶液、酸と塩基(アルカリ)、pH		
7	・酸化とは還元とは		
8	酸化数、酸化剤と還元剤、イオン化傾向と金属の反応		
9	・化学反応では原子の組換えが起こっている		
10	化学反応式、反応速度、活性化エネルギー、化学平衡		
11	・有機化合物とは何だろう		
12	共有結合、命名法、異性体、身近な有機化合物		
13	・ヒトをつくっているものは何だろう		
14	無機元素、糖質、アミノ酸とタンパク質、脂質、核酸		
15	・まとめと解説		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験、出席状況、授業態度など総合的に評価する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>理科教諭として、県立高等学校(6校)に勤務。主に化学を担当。県立高校での実務経験をもとに「化学」について講義を行います。</p>			

科目名	心理学	授業担当者	波平 利美
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>心理学の基礎から応用の多岐にわたる分野を紹介する。日常的な現象と密接に関連する心理学の知識を用い、人間を理解する力、対人関係スキルを培うことを目標とする。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的な思考や多面的にものを把握する力を獲得する。 ・人間の様々な心理的機能を理解する。 ・自己、他者の心理と行動について洞察する姿勢を身につける。 ・対人関係における信頼関係の礎となる対応の仕方を理解する。 ・ストレスについて理解し、ストレスと上手に付き合うスキルを磨く。 			
回	授 業 内 容		
1	心理学とは	(心理学の紹介、オリエンテーション)	
2	見る・聞く・感じるころ	(感覚、知覚)	
3	学ぶころ	(学習のプロセス)	
4	覚えるころ	(記憶のメカニズム)	
5	やる気の心理	(動機づけ、欲求)	
6	喜怒哀楽のころ	(感情、フラストレーション、ストレス)	
7	その人らしさの心理	(パーソナリティ)	
8	かしこさの心理・考えるころ	(知能、思考)	
9	発達するころ 1	(発達段階と発達課題、乳幼児期、児童期)	
10	発達するころ 2	(青年期、成人期、高齢期)	
11	人と関わる心理	(対人認知、帰属理論)	
12	人と集うころ	(集団、リーダーシップ、社会的影響)	
13	健康なころ	(メンタルヘルス、心理臨床)	
14	カウンセリングのころ	(カウンセリングマインド)	
15	思いを伝え合うころ	(コミュニケーションスキル)	
<p>《評価方法》</p> <p>講義毎の学習カード、テスト、出席状況、受講態度を総合的に評価する。 テスト内容は、全講義のレジュメより出題する。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「心理学」(医歯薬出版) 参考文献は、講義で適宜紹介</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>公認心理師。沖縄県教育委員会委嘱スクールカウンセラーとして、那覇教育事務所・島尻教育事務所管内公立学校で勤務。及び県内私立中高一貫校スクールカウンセラー。 心理学に関する専門的知識と実務経験を活かして、心理学を担当します。</p>			

科目名	倫理学	授業担当者	田場 由美雄
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>倫理学とは、人間社会の中で人間の行為の善悪つまり、何が「よい」ことで、何が「わるい」ことか、という「よい」「わるい」を決め、評価・研究する学問です。従って、人間のあらゆる行為がその研究対象になるのですが、授業では「王道」である西洋哲学史の中の倫理学については必要最小限度に触れるのみに留め、現代社会の中で私達が生きていく上での最低限度の倫理的感性を身につけるための「応用倫理学」に焦点をあてて勉強します。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>モラル・ハザード(道德破壊)の声が久しい現代社会の中で、私たちが生き(行為し)ていく上での最低限度のモラル・センス(倫理的感性)を身につけてもらいます。</p> <p>そのためには自分たちの身につけてきた道德意識を自己反省的に捉え返しなが、人間関係(そこには、家族の中の親と子、学校、職場等の中の人間関係が含まれる)を調整し、自己を律するマナー等を授業で学んだことと照らし合わせながら他人(及び自己)に説得的に説明できるよう、記述(文章表現)する訓練を課し、その到達達成をみます。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	・哲学の中の倫理学－倫理学の根本について		
2	・過去・現在・未来の倫理学 この二つの項で西洋哲学史の中のカントの自由やミルの功利主義などにも触れます		
3	・応用倫理学の基本的なタームの解説－正義・平等・分配・幸福など		
4	・自律の倫理学		
5	・親と子の世代間倫理学－家族の倫理学、子育ての倫理学		
6	・社会的共同性の倫理学		
7	・強者と弱者の倫理学		
8	・宗教の倫理学		
9	・環境倫理学など その時々(トピック)などにも触れていく		
<p>《評価方法》</p> <p>受講態度や出席状況を参考程度にして、主として授業の中で課す小レポート、提出感想文、定期試験の成績、この三つで総合的に評価します。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>教科書:最新歯科衛生士教本「歯科医療倫理」(医歯薬出版)</p> <p>参考資料:随時資料プリント配布</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>講師として、沖縄県立看護大学看護学部看護学科で、教養科目の「沖縄の歴史と文化」を1998年4月から10年間担当。</p>			

科目名	社会学	授業担当者	高江洲 敦子
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 16時間
<p>《学習目標》</p> <p>沖縄の社会や文化は、固有なものを持ちつつも中国や日本本土との交流の過程で、さまざまな影響を受けてきた。他地域から移入された文化は、当該地域の文化と習合し、その形を変容していく。以上の文化的状況を前提に、本講義では沖縄の社会の仕組みや文化について、戦前と戦後を比較しながら進める。なお、中国や日本本土の事例も紹介する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>講義を通して、沖縄の社会的変容及び、中国・日本本土・沖縄における文化的共通性や独自性について学び、理解を深めてもらいたい。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	講義内容紹介及び「社会学」とは何か。		
2	沖縄社会の成り立ち。(地域社会に視点を置く)		
3	人生儀礼①婚姻と出産		
4	②成人儀礼		
5	③葬制		
6	年中行事概説		
7	祖先祭祀①位牌祭祀		
8	②門中祭祀		
<p>《評価方法》</p> <p>学期末試験・レポート及び、講義への参加姿勢によって評価を行う。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>テキスト:特になし。毎回配布するレジュメと資料に沿って講義を行う。 参考文献:講義時に配布するレジュメに明記して紹介する。</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>平成12年～ :沖縄国際大学非常勤講師(総合文化学部社会文化学科任用) 平成15年～25年:名桜大学非常勤講師(国際学部国際文化学科) 平成27年～ :沖縄歯科衛生士学校非常勤講師</p>			

科目名	英語	授業担当者	城間 純子
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間
≪学習目標≫ 外人患者とコミュニケーションする上で、手助けになるような英語を修得する。			
≪到達目標≫ ・外人患者からの電話での予約に対応できる。 ・症状の説明を聞き、歯科医師に伝達することができる。 ・病状を訪ねることができる。			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	・電話での予約		
2	・薬の依頼		
3	〃		
4	・救急の予約		
5	〃		
6	・国民健康保健		
7	〃		
8	・患者さんに症状を説明してもらおう		
9	〃		
10	・病状を訪ねる		
11	〃		
12	・歯周病		
13	〃		
14	・妊娠		
15	・なぜクリーニングが必要か		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う 授業態度を評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯科英語」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 沖縄県立南風原高校で英語の講師として勤務しております。 この実務経験をもとに英語について講義を行います。			

科目名	解剖学	授業担当者	片岡 恵一
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
≪学習目標≫ 人体の構造を理解する 発生および遺伝について理解する 人体の機能について理解する			
≪到達目標≫ 人体の構造、機能、発生について十分な知識を有し、説明できる			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	解剖学ガイダンス		
2	組織と発生		
3	骨格系		
4	筋と運動		
5	消化、吸収		
6	循環		
7	神経系		
8	呼吸		
9	感覚		
10	排泄		
11	体温		
12	内分泌		
13	生殖		
14	遺伝学の基礎		
15	まとめ		
≪評価方法≫ 期末試験での理解度の評価			
≪教科書・参考文献≫ 人体の構造と機能 解剖学、組織発生学、生理学			
≪実務経験≫ 琉球大学医学部 助教として医学部学生講義、実習担当 琉球大学 医学研究科 人体解剖学講座にて研究に従事			

科目名	組織・発生学	授業担当者	和泉 伸一
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>人体を構成する細胞や組織ならびに個体が形成される過程を知る。</p> <p>顔面や口や歯などが胚子・胎児期にどのようにできたか知り、また歯や歯周組織を構成する組織や細胞を知ることによってそれらの正常な構造や機能が理解できる。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>細胞・組織・発生 of 専門用語や歯の断面像での組織およびその特徴的な構造や細胞名を覚えその意味が説明でき、模式図を描いたり模式図に用語を記入したりできること。</p> <p>肉眼と顕微鏡像を頭の中で関連付けること。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	人体の構造と機能1 I編 組織と発生。1章 細胞。		
2	" I編 組織と発生。1章 組織。		
3	" I編 組織と発生。2章 発生。		
4	歯・口腔の構造と機能。I編 顎・口腔の構造と機能。1章 顔面と口腔の発生。		
5	" II編 歯および歯周組織の構造と機能。2章 歯と歯周組織の発生。		
6	" II編 歯および歯周組織の構造と機能。3章 歯および歯周組織の構造と機能(エナメル質)		
7	" II編 歯および歯周組織の構造と機能。3章 歯および歯周組織の構造と機能(象牙質・歯髄複合体)		
8	" II編 歯および歯周組織の構造と機能。3章 歯および歯周組織の構造と機能(セメント質、歯根膜)		
9	" II編 歯および歯周組織の構造と機能。3章 歯および歯周組織の構造と機能(歯槽骨)		
10	" II編 歯および歯周組織の構造と機能。3章 歯および歯周組織の構造と機能(歯肉・口腔粘膜)		
<p>《評価方法》</p> <p>期末試験:90点</p> <p>授業内での質疑応答:10点</p> <p>合計:100点</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>長崎大学大学院医薬学研究科(歯学系)の教員・研究員(医学博士)として勤務し、長崎大学歯学部・長崎歯科衛生士専門学校、その後、沖縄歯科衛生士学校等において、(口腔)組織学と発生学の講義と実習を担当し、歯科医師国家試験プール問題および歯科技工士国家試験問題(長崎県)の作問やPBLおよびCBT教育等に携わった。</p>			

科目名	生理学	授業担当者	徳田 安成
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>生体がつさまざまな状態を研究する自然科学の1つで解剖学、組織学、薬理学(生化学)ともきわめて関係が深く、これらの各科目と相互に関連して知識を整理し内容を修得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>人体生理学の知識と理解を確実にし臨床的に必要な事項を具体的に説明できるようになる。</p>			
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	細胞の構造と機能 筋の構造と機能、運動		
2	胃・小腸・大腸の機能		
3	循環（血管の構造、機能）（血液の成分、機能、凝固と溶解、血液型）		
4	循環（心臓、動脈系、静脈系、リンパ系）		
5	神経系の基本的機能		
6	呼吸		
7	感覚、排泄		
8	体温、内分泌		
9	生殖、まとめ		
10	まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>教科書:最新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 教科書:最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) 参考文献:生理学(文光堂) 参考文献:歯科医学大事典(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>とくだ歯科クリニック開設後、23年の実務経験をもとに生理学について講義します。</p>			

科目名	生化学	授業担当者	城間 かおり・儀間 裕
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>生命の基本となっている細胞の構造や細胞小器官の働き、栄養素の体内変化とエネルギーの生成過程を理解する。これらの知識に基づいて、口腔に関わる歯と歯周組織、唾液やプラークの生成、成分について学ぶ。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命の基本単位が細胞であり、細胞の構造とそれぞれの役割が説明できる。 ・ 栄養素が生体の構成要素であることを理解し、その構成比率と特徴を説明できる。 ・ 三大栄養素の代謝過程を理解し、エネルギーが生成される過程を説明できる。 ・ 生命の基本単位である細胞の構造と細胞内小器官の機能が説明できる。 ・ 栄養素がの吸収され生体を構成する過程、また栄養素が代謝される過程を理解し、エネルギーが生成される過程を説明できる。 ・ 歯と歯周組織および唾液、プラークの組織学的、生化学的特徴を述べることができる。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	生体の構成要素	城 間	
2	生体における化学反応	〃	
3	糖質と脂質の代謝	〃	
4	タンパク質とアミノ酸の代謝	〃	
5	生体における恒常性の維持	〃	
6	生体の構成要素	儀 間	
7	生体における化学反応	〃	
8	糖質と脂質の代謝	〃	
9	タンパク質とアミノ酸の代謝	〃	
10	生体における恒常性の維持	〃	
11	歯と歯周組織の生化学	〃	
12	硬組織の生化学	〃	
13	唾液の生化学	〃	
14	プラークの生化学	〃	
15	まとめ	〃	
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 出席状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 「栄養と代謝」(医歯薬出版) スクエア 最新図説生物 (第一学習社)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>城間:病院の管理栄養士として、北中城若松病院で勤務し、高齢者の栄養管理について担当。 その実務経験をもとに栄養素の体内代謝及び細胞の構造について講義を行います。</p> <p>儀間:昭和56年4月より平成12年まで琉球大学医学部歯科口腔外科学講座にて診療、研究、教育に従事、平成13年4月より平成17年3月まで同大学医学部解剖学第2講座にて非常勤講師として、研究、教育に従事した。以上より生化学の授業に必要な知見を有しており講義に支障ありません。</p>			

科目名	生化学	授業担当者	儀間 裕
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 20時間
<<学習目標>> 生命の基本となっている細胞の構造や細胞内小器官の働き、栄養素とエネルギーの生成過程を理解する。 について学ぶ。			
<<到達目標>> ・生命の基本単位である細胞の構造と細胞内小器官の機能が説明できる。 ・栄養素がの吸収され生体を構成する過程、また栄養素が代謝される過程を理解し、エネルギーが生成される過程を説明できる。 ・歯と歯周組織および唾液、プラークの組織学的、生化学的特徴を述べるができる。			
<<授業計画>>			
回	授 業 内 容		
1	生体の構成要素		
2	生体における化学反応		
3	糖質と脂質の代謝		
4	タンパク質とアミノ酸の代謝		
5	生体における恒常性の維持		
6	歯と歯周組織の生化学		
7	硬組織の生化学		
8	唾液の生化学		
9	プラークの生化学		
10	まとめ		
<<評価方法>> 定期試験で総括的評価を行う 出席状況、授業態度などを総括的評価に加味する			
<<教科書・参考文献>> 最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版) スクエア 最新図説生物 (第一学習社)			
<<実務経験>> 昭和56年4月より平成12年まで琉球大学医学部歯科口腔外科学講座にて診療、研究、教育に従事、平成13年4月より平成17年3月まで同大学医学部解剖学第2講座にて非常勤講師として、研究、教育に従事した。以上より生化学の授業に必要な知見を有しており講義に支障ありません。			

科目名	口腔解剖学	授業担当者	友寄 泰樹
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
≪学習目標≫ 口腔とその周囲組織の構造と機能について、臨床と関連づけながら理解する。			
≪到達目標≫ <ul style="list-style-type: none"> ・口腔とその周囲組織の解剖学的名称を正確に表現できる。 ・顔面ならびに口腔を構成する骨、頭頸部の脈管系、神経について概説できる。 ・頭頸部の筋(特に咀嚼筋)の構成と機能について概説できる。 ・舌、唾液腺、顎関節の構造と機能を概説できる。 			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	口腔① 口腔付近の表面、口腔前庭、口唇、頬、歯肉		
2	口腔② 固有口腔(口蓋、口腔底、舌)		
3	頭蓋骨		
4	上顎骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨、歯周組織		
5	顔面筋(表情筋)、咀嚼筋、舌筋、頸部の筋		
6	1～5回までのまとめと知識の確認		
7	顎関節		
8	唾液腺(大唾液腺、小唾液腺)、咽頭、喉頭		
9	口腔付近に分布する脈管系(動脈、静脈、リンパ系)		
10	神経①(脳神経の概要、三叉神経)		
11	神経②(顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経、自律神経)		
12	摂食、咀嚼、嚥下、構音、味覚に関する口腔解剖		
13	7～12回までのまとめと知識の確認		
14	国家試験問題①(過去問)		
15	国家試験問題②、まとめ		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う。 出欠状況、授業態度、小テスト、レポートなどを総括的評価に加味する。			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬出版株式会社)			
≪実務経験≫ 歯科医師として東北大学歯学部・国立仙台病院・九州歯科大学の歯科口腔外科に勤務。 口腔外科での実務経験をもとに口腔解剖学について講義・実習を行います。			

科目名	歯牙解剖学	授業担当者	吉田 誠
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の基礎的な構造・機能・用語を習得する. ・乳歯と永久歯の各々の形態をスケッチなども取り入れながら理解し, その臨床的特徴を理解することにより, 歯科衛生士として必要な知識を習得する. 			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の表示法や記号について説明できる. ・歯種を鑑別できる. ・歯の萌出順について説明できる. ・歯列と咬合について説明できる. ・歯の形態を歯種別に説明できる. ・歯の形態異常について説明できる. 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	歯の機能, 交換, 植立, 組織, 歯の形態, 種類と数,		
2	歯の表示法, 歯式, 歯の位置による名称, 歯の用語, 根管の形態, 歯の左右の鑑別		
3	永久歯の特徴(上下顎切歯)		
4	永久歯の特徴(上下顎犬歯)		
5	(実習)上下顎切歯, 犬歯のスケッチ		
6	永久歯の特徴(上下顎小白歯)		
7	(実習)上下顎小白歯のスケッチ		
8	永久歯の特徴(上下顎大白歯)		
9	(実習)上下顎大白歯のスケッチ		
10	乳歯の特徴(永久歯との比較, 上下顎乳前歯)		
11	乳歯の特徴(上下顎乳犬歯, 上下顎乳白歯)		
12	特色のある歯の形態		
13	歯列		
14	咬合		
15	総括と演習問題		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験および課題提出にて総括的評価を行う。 出欠状況, 授業態度などを総括的評価に加味する。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として同仁病院 歯科口腔外科に勤務。主に口腔外科疾患の観血的治療を担当。 上記の実務経験をもとに「歯牙解剖」について講義・実習を行います。</p>			

科目名	口腔生理学	授業担当者	玉那覇 哲
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>近年、高齢社会の進展に伴い口腔機能・食の経口摂取・口腔ケアの重要性への認識が高まりつつある中で、咬合・咀嚼・嚥下・発声・味覚の生理についてそのメカニズムを理解することにより、口腔・顎・顔面等の諸器官を健全に維持し、また、これらの機能障害の予防治療を行う上で基礎的な知識を得ることを目標とする。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯と口腔の感覚について説明できる 2. 味覚と嗅覚について説明できる 3. 咬合と咀嚼・吸啜について説明できる 4. 嚥下と嘔吐について説明できる 5. 発声について説明できる 6. 唾液について説明できる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	歯・口腔粘膜の感覚		
2	味覚、嗅覚		
3	下顎位、下顎の運動		
4	顎反射、摂食行動		
5	咀嚼能力、吸啜		
6	嚥下と嘔吐に関わる構造		
7	嚥下、嘔吐		
8	声の生成、言語音の形成、歯・口腔の病態と発音		
9	唾液腺、唾液の分泌機構		
10	唾液の性状・成分と機能、唾液と疾患		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として勤務するたまなは歯科医院での実務経験をもとに口腔生理について講義します。</p>			

科目名	病理学(含口腔病理学)	授業担当者	千葉 章規
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間(内14時間担当)
≪学習目標≫ 生体における病気の本態を巨視的及び微視的に理解する			
≪到達目標≫ ・健康について改めて理解する ・病気というものを、病気の原因・発生機序・経過・転帰という観点からとらえることを理解する			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	病理学の意義・定義、病気の原因について理解する		
2	遺伝性疾患と奇形について理解する		
3	代謝障害について理解する		
4	増殖と修復について理解する		
5	循環障害について理解する		
6	炎症と免疫について理解する		
7	腫瘍について理解する まとめ		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う。			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 歯科医師として、ちば歯科医院に勤務。歯科一般の治療を担当。 歯科医院での実務経験をもとに病理学について講義を行います。			

科目名	病理学(含口腔病理学)	授業担当者	澤田 茂樹
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間(内16時間担当)
<p>《学習目標》</p> <p>疾病の概念、その発生機序と病理学的特徴を理解する。さらに、歯と歯周組織ならびに口腔領域に発生する疾患の病態を理解する。</p>			
<p>《到達目標》</p>			
1	歯の発育異常について説明できる。		
2	う蝕の病因・病理学的特徴について説明できる。		
3	根尖部歯周組織・辺縁部歯周組織の病変について説明できる。		
4	歯科治療に伴う治癒の病理について説明できる。		
5	口腔の発育異常を説明できる。		
6	口腔粘膜疾患および前癌病変・口腔癌の病態を説明できる。		
7	口腔ののう胞・腫瘍病変および唾液疾患の病態を説明できる。		
8	加齢に伴う口腔病変を説明できる。		
9	全身疾患と口腔病変との関連について説明できる。		
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	歯の発育障害		
2	う蝕		
3	歯髄疾患		
4	根尖性歯周疾患		
5	歯周疾患		
6	口腔粘膜疾患と口腔腫瘍		
7	口腔領域ののう胞と唾液腺疾患		
8	まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総合的評価を行う。 出欠状況、授業態度などを評価の参考にする。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本『病理学・口腔病理学 第2版』(医歯薬出版) 歯科衛生士国家試験対策①(第4版) (医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として沖縄県立歯科口腔外科に勤務(南部医療センター・こども医療センター・宮古病院・北部病院)。琉球大学医学部病理学講座での実務経験も活かし、臨床経験をもとに口腔病理学について講義を行う。</p>			

科目名	薬理学(含歯科薬理学)	授業担当者	山城 正裕
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>薬を正しく使用するため、薬物の性質をよく知るとともに、生体と薬物の関わり合いについて知識を修得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物を投与したときにおこる変化(効果)を理解する。 ・薬物の取り扱いに関する基本を理解する。 ・全身的に投与する薬物に関する基本的な知識を修得する。 ・歯科の治療内容と、それに関連する薬物の関係を理解する。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	総論		
2	総論		
3	総論		
4	ビタミンとホルモン 末梢神経系に作用する薬物		
5	中枢神経系に作用する薬物 循環器系に作用する薬物		
6	腎臓に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物		
7	消化器系に作用する薬物 血液に作用する薬物		
8	免疫と薬 悪性腫瘍と薬		
9	代謝性疾患治療薬 炎症と薬痛みと薬		
10	局所麻酔薬		
11	抗感染症薬		
12	消毒に使用する薬		
13	う蝕予防薬 歯内療法薬		
14	歯周疾患治療薬 顎・口腔粘膜疾患と薬		
15	まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>期末試験で総括的評価を行う。出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「薬理学」第2版</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>昭和60年以來の歯科臨床経験をもちに、薬理学について講義を行います。</p>			

科目名	微生物学	授業担当者	新垣 榮
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位30時間(内14時間担当)
<p>《学習目標》</p> <p>安全確実に一般人・有病者に対して、全身衛生管理が行えるよう、微生物の様相と実態を把握する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>微生物の一般的性状を把握し、説明できる 微生物の病原因子について把握し、説明できる 微生物の病原性と宿主の抵抗力のバランスについて説明できる 感染について説明できる 免疫について説明できる ウイルスについて説明できる</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	疾病と微生物		
2	微生物の位置づけ		
3	細菌の性状と病原性		
4	ウイルスの性状と病原性		
5	宿主防護機構		
6	免疫機構		
7	過敏症		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>琉球大学医学部助手、米国国立衛生研究所研究員の实務経験を基に講義を行います。</p>			

科目名	微生物学(口腔微生物学)	授業担当者	幸地 克
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位30時間(内16時間担当)
≪学習目標≫ 口腔疾患に関する予防処置、保健指導をするにあたり、その原因となる微生物やそれによって起こる感染症について知識を修得する			
≪到達目標≫ ・感染症の原因となる微生物の特徴とその疾患について知る ・細菌に対する化学療法剤について述べることができる ・感染予防のための滅菌と消毒について述べることができる ・口腔内環境と常在微生物について述べるができる ・口腔内感染症について、その起因菌との関わりについて知る			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	主な病原性微生物について、その症状と病原性について ①		
2	主な病原性微生物について、その症状と病原性について ②		
3	主な病原性微生物について、その症状と病原性について ③		
4	口腔内細菌叢とプラークについて		
5	口腔感染症 う蝕		
6	口腔感染症 歯周病		
7	化学療法と化学療法薬		
8	院内感染対策と滅菌、消毒		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う 出欠状況、授業態度などを総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 歯科医師としてタマキ歯科医院、仲里歯科医院、こうち歯科医院にて勤務。 主に歯科、小児歯科の治療を担当。 これらの診療所での実務経験をもとに微生物学について講義・実習を行います。			

科目名	保健生態学	授業担当者	下地 隆之
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間(内14時間)
≪学習目標≫ 歯・口腔の健康と予防に関する総論的概念の理解と基礎的な知識を習得する。			
≪到達目標≫ 歯・口腔の予防に関する総論を理解し、歯・口腔の健康像を説明できる 歯・口腔の付着物や沈着物とその清掃法を理解する う蝕の予防に関する総論・メカニズムを理解する			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	歯・口腔の健康と予防 歯・口腔の健康(前半)		
2	歯・口腔の健康(後半)		
3	歯・口腔の付着物・沈着物		
4	口腔清掃(前半)		
5	口腔清掃(後半)		
6	歯科疾患の疫学 う蝕の予防(前半)		
7	う蝕の予防(後半)		
≪評価方法≫ 定期試験にて評価します。			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本 保健生態学(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 歯科医院開業での実務経験を基に保健生態学について講義します。			

科目名	口腔衛生学	授業担当者	野原昭彦
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位30時間(内16時間担当)
≪学習目標≫ フッ化物によるう蝕予防の安全性と有効性を理解する 歯周疾患の予防について理解する その他の疾患・異常の予防について理解する			
≪到達目標≫ 各ライフステージにおける口腔保健管理を理解する			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	フッ化物について総論①		
2	フッ化物について総論②		
3	フッ化物によるう蝕予防法①		
4	フッ化物によるう蝕予防法②		
5	歯周疾患の予防		
6	その他の疾患・異常の予防		
7	各ライフステージにおける口腔保健管理		
8	総括(まとめ)		
≪評価方法≫ 定期試験で総括的評価を行う 出欠状況、授業態度なども総括的評価に加味する			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「保健生態学 第2版」(医歯薬出版) ポイントチェック歯科衛生士試験対策②(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 歯科医師として日本歯科大学附属病院補綴学第Ⅱ講座入局、主にクラウンブリッジ治療を担当。同大学付属病院一般歯科診療室にて臨床実習生および研修歯科医を指導。中部地区歯科医師会地域保健担当理事として地域の口腔保健活動に係わった経験をもとに講義をする。			

科目名	公衆歯科衛生	授業担当者	島袋 郁子
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間(内16時間担当)
<p>《学習目標》</p> <p>公衆歯科衛生の意義を理解し、地域歯科保健活動のうち、妊娠期から、乳幼児期、学童期における、歯科衛生士としての知識と、考え方、対応を学習する。</p> <p>国際保健目標、国際協力について学習する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>ライフステージの中で、胎児期から青年期までと、妊娠期の口腔保健管理について説明できる</p> <p>妊娠期の特徴を理解し、母性歯科保健の意義と内容について説明できる</p> <p>乳幼児期の口腔衛生、むし歯予防、口腔育成について理解し、指導事項を説明できる</p> <p>学童期、青年期の口腔衛生の現状を把握し、保健活動、指導事項を説明できる</p> <p>国際保健、国際協力の状況を理解し、国際的な口腔保健目標を説明できる</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	日本や沖縄県の地域保健を考える上での、地域性、歯科の現状と課題について		
2	母子保健の意義、母子歯科保健の意義、母性歯科保健の活動の実際、妊娠期の口腔衛生		
3	乳児期の歯科保健の意義、口腔衛生の状況、乳児健診での保健指導、母乳育児を含めた育児支援		
4	乳児期の歯科保健の意義、口腔衛生の状況、1歳6ヶ月児、3歳児健診での歯科保健指導		
5	地域保健活動における、コミュニケーションスキルの必要性、実際		
6	学校保健の意義、学校歯科保健の意義、活動の仕組み、学童から青年期までの口腔衛生の現状		
7	学校歯科保健の実際、食育との連携について		
8	国際保健の状況、保健戦略、口腔保健目標、全体のまとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う</p> <p>出欠状況、授業態度、レポート提出などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「保健生態学」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として、おさむファミリー歯科クリニックに勤務。</p> <p>主に、小児歯科の治療と保健指導を担当。</p>			

科目名	公衆歯科衛生	授業担当者	高良 政憲
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間(内14時簡担当)
≪学習目標≫ 健康に関わる地域の役割 地域保健、公衆衛生、学校保健、成人・老人保健			
≪到達目標≫ ・地域保健、公衆衛生、学校保健、成人及び老人保健等のそれぞれの役割を把握する			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	地域社会と地域保健の概念と地域保健の組織		
2	地域保健の新たな概念		
3	地域保健の新たな概念及び地域保健活動の進め方		
4	健康づくり対策と地域歯科保健		
5	成人・老人保健の意義と保健活動		
6	成人・老人保健の意義と介護予防授業		
7	まとめ(総括)		
≪評価方法≫ 定期試験で総括評価を行う			
≪教科書・参考文献≫ 最新 歯科衛生士教本「保健生態学」(医歯薬出版)			
≪実務経験≫ 平成13年より歯科衛生士学校にて、公衆歯科衛生学を担当、現在保健生態学を実務中。 平成21年より日本歯科医師会認定歯科助手講習会 保存補綴を指導、現在に至る。			

科目名	衛生学・公衆衛生学	授業担当者	新垣 榮
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>衛生学・公衆衛生学の目的を理解し、歯科衛生士の立場から健康問題と環境因子との相互関係を理解する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生および予防医学の概要、意義を説明できる 2. 人口、保健統計指標を列挙でき、疫学的方法、感染症予防について説明できる 3. 生活および地球環境と健康の相互関係、望ましい廃棄物処理について説明できる 4. 地域保健、成人・老人保健および介護サービスについて説明できる 5. 産業保健対策、精神保健の概要について説明できる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	公衆衛生の概要、健康の定義、予防医学		
2	疫学の概要、健康障害の発生要因		
3	記述疫学、分析疫学、介入研究		
4	世界とわが国の人口、人口構造と人口の高齢化		
5	人口動態統計の概要、出生、死亡の指標、生命表		
6	環境の概念、空気、水、放射線と健康		
7	地球環境、公害、廃棄物処理		
8	感染症の種類と流行の三要因		
9	感染症の予防対策、動向		
10	食の安全性、食中毒の疫学、分類		
11	地域保健の概要と組織、活動の進め方		
12	成人、老人保健意義と保健活動、介護サービス		
13	産業保健の概要と職業性疾病、産業保健管理・対策		
14	精神保健の医療、福祉、心の健康づくり		
15	まとめ(総括)		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う</p> <p>出席状況、授業態度などを総括的評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「保健生態学」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>琉球大学医学部助手、米国国立衛生研究所研究員の实務経験を基に講義を行います。</p>			

科目名	歯科衛生士概論	授業担当者	大山 こずえ
開講時期	1年 前期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>歯科衛生業務に必要な知識・技術の概要及び基本事項を理解させ、医療人としての心構えや歯科衛生士の義務と責任に関する知識、態度及び考え方を習得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生士の歴史について理解する 2. 歯科衛生士の活動の場と業務内容について理解する 3. 歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務及び法的義務について理解する。 4. 歯科衛生過程を活用する意義を理解する。 5. 歯科衛生士としての医療倫理観を理解する 6. 歯科衛生士の社会組織活動について理解する 			
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	オリエンテーション 歯科衛生士とは		
2	歯科衛生学とは・歯科衛生の歴史		
3～4	歯科衛生士の活動の場と業務内容		
5	歯科衛生活動のための理論		
6～7	歯科衛生士法と歯科衛生業務		
8～10	歯科衛生士と医療倫理(1)(2)		
11～12	歯科衛生過程(1)(2)		
13～14	歯科衛生の活動と組織		
15	1回～14回まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>期末試験で総括的評価を行う。</p> <p>レポート提出、出席状況、授業態度などを総括的評価に加味する。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」「歯科医療倫理」</p> <p>最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律」</p> <p>新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」第2版</p> <p>その他必要な参考資料を適時活用</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として歯科診療所及び口腔衛生センターにおいて歯科衛生士業務に従事し歯科衛生士業務関連の講義・実習行います。</p>			

科目名	歯科臨床概論	授業担当者	金城 孝
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>本科目では各ライフステージの歯科的特徴や問題点を知り、これに対応する歯科診療を理解し、関連する歯科衛生士の業務を修得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療の現状が説明できる。 ・歯科診療所の設備内容と診療業務を把握し、医療安全と感染防止への対応ができる。 ・各ライフステージの歯科的特徴や問題点を説明できる。 ・バイタルサインの確認、画像検査や歯周組織検査ができる。 ・各専門科目(小児歯科、歯科矯正、口腔外科、歯科保存、歯周病、歯科補綴)の概要の説明ができる。 ・障害者歯科や高齢者歯科の概略、摂食嚥下障害への対応について説明できる。 ・全身疾患への対応や周術期の対応、訪問診療などについて説明できる。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	歯科臨床の場と関わる人々、診療の対象者、歯科診療所の紹介と安全管理の概要		
2	歯科診療所における歯科診療と歯科衛生士業務、ライフステージと歯科診療の概要、バイタルサインの確認と手順、画像検査の概要		
3	歯周組織検査の概要、痛みのコントロールについての概要(歯科麻酔を含む)		
4	小児歯科治療の概要(小児の発達、先天異常、う蝕予防処置など)、歯科矯正治療の概要		
5	口腔外科治療の概要(外傷、抜歯、口腔粘膜疾患など)		
6	歯科保存治療の概要(知覚過敏症、う蝕、歯内療法など)		
7	歯周治療の概要(全身疾患との関連、基本治療と外科治療、メンテナンスなど)		
8	歯科補綴治療の概要(クラウン・ブリッジ、有床義歯など)		
9	障害者歯科治療や高齢者歯科治療の概要、摂食嚥下障害の概要		
10	全身疾患への対応、周術期の対応、歯科訪問診療の概要		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行うが、出席状況、授業態度なども評価に加味する。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「歯科衛生士のための歯科臨床概論」(医歯薬出版株式会社)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>歯科医師として沖縄赤十字病院歯科口腔外科に勤務。定年後は同部署にて非常勤。これまでの実務経験をもとに歯科臨床概論の講義を行います。</p>			

科目名	歯科予防処置	授業担当者	譜久里 律紀										
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 40時間										
<p>《学習目標》</p> <p>歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。 特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。</p>													
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士の法的な位置づけを説明できる. ・ 歯科予防処置論の定義を説明できる. ・ 正常な口腔の構成要素をあげる. ・ 歯周組織の構成要素をあげる. ・ 歯冠および歯根の形態を説明できる. ・ 口腔内の付着物、沈着物をあげる. ・ プラークや歯石の成分や分類をあげる. ・ う蝕の分類および原因とプロセスを説明できる. ・ う蝕予防処置の応用について説明できる. ・ 歯周病の分類および原因とプロセスを説明できる. ・ 手用スケーラーの種類と特徴を説明できる. ・ シックルスケーラーの操作方法を説明できる. ・ シックルスケーラーを適切に操作できる(マネキン模型上) 													
<p>《授業計画》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・歯科予防処置論の概要</td> </tr> <tr> <td>2～3</td> <td>・歯科予防処置の基礎知識、う蝕と歯周病の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4～15</td> <td>・歯科衛生介入のための歯科予防処置 シックルスケーラー基礎実習</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>・まとめ</td> </tr> </tbody> </table>				回	授 業 内 容	1	・歯科予防処置論の概要	2～3	・歯科予防処置の基礎知識、う蝕と歯周病の基礎知識	4～15	・歯科衛生介入のための歯科予防処置 シックルスケーラー基礎実習	16	・まとめ
回	授 業 内 容												
1	・歯科予防処置論の概要												
2～3	・歯科予防処置の基礎知識、う蝕と歯周病の基礎知識												
4～15	・歯科衛生介入のための歯科予防処置 シックルスケーラー基礎実習												
16	・まとめ												
<p>《評価方法》</p> <p>原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。 筆記試験、実技試験</p>													
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置」 (医歯薬出版) 歯科衛生士教本 「歯周病治療の基礎と臨床」 (永末書店) 福田知恵子・金子菜美江(著) 「診査・スケーリングテクニック」 (クインテッセンス出版) 加藤久子(著) 「プロフェッショナル・スケーリング・テクニック」 (医歯薬出版) 加藤久子(著) 「トータルスケーリングテクニック」 (医歯薬出版)</p>													
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として一般診療所、歯科口腔外科に勤務。 一般診療所では歯科衛生士業務全般担当し、歯科口腔外科では主に入院患者の口腔ケアを担当。 これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。</p>													

科目名	歯科予防処置	授業担当者	譜久里 律紀														
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 74時間														
<p>《学習目標》</p> <p>歯科衛生士の職務の根幹となる歯科予防処置の基礎的な知識と手技を習得する。 特に、手技においては対象が「生きている人」であることから、より確実なものを身に付ける。</p>																	
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シャープニングの原則および目的を説明できる。 ・ シャープニングする各種スケーラーの形態と名称を説明できる。 ・ 砥石を選択できる。 ・ 各種スケーラーのシャープニングを実施できる。 ・ 歯面研磨・歯面清掃の目的と特徴を説明できる。 ・ 歯面研磨・歯面清掃の有効性を説明できる。 ・ 歯面研磨・歯面清掃を行う器材を選択できる。 ・ 歯面研磨・歯面清掃方法を選択し、実施できる。 ・ 歯面研磨・歯面清掃をスケーリングなどの手段と併せて実施できる。 ・ 歯面研磨を習得する。 ・ 口腔内検査を習得する。 ・ 偶発事故の処理法を理解する。 ・ 血液暴露事故の際の処理法を理解する。 ・ スケーリング操作を習得する。 ・ エアスケーラーの種類と特徴を説明できる。 ・ エアスケーラーの使用方法を説明できる。 ・ 口腔内の観察項目とポイントをあげる。 ・ 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる。 ・ 歯周病に関連する検査をあげる。 																	
<p>《授業計画》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授 業 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・シャープニング</td> </tr> <tr> <td>2～4</td> <td>・歯面研磨実習</td> </tr> <tr> <td>5～7</td> <td>・シックルスケーラー基礎実習</td> </tr> <tr> <td>8～14</td> <td>・シックルスケーラー相互実習</td> </tr> <tr> <td>15～17</td> <td>・エアスケーラー実習</td> </tr> <tr> <td>18・19</td> <td>・歯周ポケット測定実習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授 業 内 容	1	・シャープニング	2～4	・歯面研磨実習	5～7	・シックルスケーラー基礎実習	8～14	・シックルスケーラー相互実習	15～17	・エアスケーラー実習	18・19	・歯周ポケット測定実習
回	授 業 内 容																
1	・シャープニング																
2～4	・歯面研磨実習																
5～7	・シックルスケーラー基礎実習																
8～14	・シックルスケーラー相互実習																
15～17	・エアスケーラー実習																
18・19	・歯周ポケット測定実習																
<p>《評価方法》</p> <p>原則として、定期試験より評価する。場合により、授業中に小試験を課することもある。 筆記試験、実技試験。</p>																	
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置」 (医歯薬出版) 歯科衛生士教本 「歯周病治療の基礎と臨床」 (永末書店) 福田知恵子・金子菜美江(著) 「診査・スケーリングテクニック」 (クインテッセンス出版) 加藤久子(著) 「プロフェッショナル・スケーリング・テクニック」 (医歯薬出版) 加藤久子(著) 「トータルスケーリングテクニック」 (医歯薬出版)</p>																	
<p>《実務経験》</p> <p>歯科衛生士として一般診療所、歯科口腔外科に勤務。 一般診療所では歯科衛生士業務全般担当し、歯科口腔外科では主に入院患者の口腔ケアを担当。 これまでの実務経験をもとに歯科予防処置について講義を行います。</p>																	

科目名	歯科保健指導	授業担当者	上原 生子
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 40時間
<学習目標> ・ 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する ・ 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解する ・ ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する ・ 口腔衛生管理を行うために必要な知識、技術および態度を習得する			
<到達目標> ・ 歯科衛生士の法的な位置づけを説明できる ・ 歯科保健指導論の定義を説明できる ・ 健康の定義を説明できる ・ プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの健康戦略の概要を説明できる ・ 食品・糖類とう蝕の関連性を説明できる ・ う蝕予防のための食品摂取方法を選択できる ・ 歯ブラシの種類と特徴を説明できる ・ 各種ブラッシング方法の特徴を説明し、実施できる ・ 歯磨剤、フッ化物配合歯磨剤の特徴と使用方法を説明できる ・ 補助的清掃用具の種類・特徴・適応を説明し、操作できる ・ 洗口剤の特徴と使用方法を説明できる ・ 各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる ・ 集団に対する伝達方法を説明できる			
<授業計画>			
回	授 業 内 容		
1 5	総論《2コマ》		
2	歯科保健指導論の概要		
3 5	歯科保健指導の基礎《3コマ》		
4	口腔の機能		
5 5	歯科保健指導実施のための基礎知識《3コマ》		
7	行動変容の要素とそのステップ、食生活(栄養指導)の基礎		
8 5	歯科衛生介入のための歯科保健指導《8コマ》		
14	口腔清掃方法		
15 5	地域歯科保健活動における健康教育や保健指導の概要を説明できる《4コマ》		
17	教育媒体作成		
<評価方法> ・ 定期試験(2回)により判定する 前期試験:50%、後期試験:50% 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う			
<教科書・参考文献> ・ 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) ・ 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」(医歯薬出版) ・ 最新歯科衛生士教本「保健生態学」(医歯薬出版) ・ 大谷広明(監)「新 歯ブラシ辞典」(学建書院) ・ 口腔保健実践ガイドブック 第2版 (学建書院) ・ その他参考資料を適宜紹介			
<実務経験> ・ 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務 受付業務を担当。歯科医院での実務経験をもとに歯科保健指導について講義・実習を行います			

科目名	歯科保健指導	授業担当者	上原 生子
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 68時間
<p>《学習目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する 歯科保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、対象者（個人、集団）の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する一連の方法を学ぶ ライフステージと機能障害に応じた食生活指導を行うために、専門的知識、技術および態度を習得する 歯科保健指導の遂行に必要な、対象者（個人、集団）の情報について収集方法を習得する 			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生介入に関連する検査方法を説明できる 口腔清掃や歯周疾患の指数を説明できる 各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる 各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアをセルフケアの歯科保健の目標を説明できる 各ライフステージの食生活指導を実施できる 各ライフステージにおける全身状態と口腔の健康について理解し説明できる 集団に対する伝達方法を理解し説明できる（幼稚園実習） 歯科衛生過程の全過程について理解し概要を説明できる 歯科衛生過程を活用し症例検討することができる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1 5 4	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理《4コマ》 分析のためのデータ		
5 5 8	ライフステージにおける歯科衛生介入《4コマ》 妊産婦、新生児・乳児期、幼児期、学齢期		
9 5 14	地域歯科保健活動《9コマ》 幼児期を対象とした歯科保健指導実習（教育媒体作成活用実習）		
15 5 16	地域歯科保健活動《3コマ》 青年期、成人期		
17 5 26	歯科衛生過程の進め方《16コマ》 歯科衛生過程の概要、歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断 歯科衛生介入、歯科衛生評価、演習		
<p>《評価方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験（2回）により判定する 前期試験：50%、後期試験：50% 前期・後期試験は各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う 実技テスト、課題提出、出席状況、授業態度を加味し、総括評価を行う 			
<p>《教科書・参考文献》</p> <ul style="list-style-type: none"> 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」（医歯薬出版） 新歯科衛生士教本「歯科保健指導」（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本「保健生態学」（医歯薬出版） よくわかる歯科衛生過程、事例でわかる歯科衛生過程（医歯薬出版） その他参考資料を適宜紹介 			
<p>《実務経験》</p> <ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・歯科診療補助業務 受付業務を担当。歯科医院での実務経験をもとに歯科保健指導について講義・実習を行います 			

科目名	歯科診療補助	授業担当者	饒波 侖奈・大山 こずえ
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 42時間
≪学習目標≫ 歯科診療補助の意味を理解し歯科診療上での基礎となる知識・技術を習得する。			
≪到達目標≫ 1 歯科医療の補助と介助の違い、法的位置づけについて述べることができる 2 医療安全と感染予防対策について理解し、実践できる 3 手指消毒やグローブの装着・着脱ができる 4 消毒、滅菌器具の取り扱いについて理解し、実践できる 5 診療時の共同動作の基本ができる 6 フォーハンドテクニックの基本動作ができる 7 器具の取り扱いや受け渡しができる 8 バキュームの基本動作ができる			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	歯科診療補助概要、歯科衛生士業務について		
2～3	診療の補助範囲、法的責任・医療安全と感染予防 ①～③		
4	手指衛生(手指消毒)実習		
5	グローブ装着法(滅菌・未滅菌)		
6～7	滅菌と消毒・滅菌物の取り扱い		
8	診療室の基礎知識・診療設備・医療廃棄物の取り扱い		
9	印象採得実習		
10	共同動作の基本・患者誘導・器具の受け渡し		
11	実習室の器械操作(ユニット・コンプレッサー・実習片付け)		
12	患者誘導・器具の受け渡し(相互実習)		
13～14	バキュームテクニック・スリーウェイシリンジ操作		
15	前期まとめ・試験対策		
≪評価方法≫ ・定期試験(2回)により判定する 前期試験:50% 後期試験:50% 前期・後期試験は、各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う ・実技試験、課題提出、出欠状況、授業態度を加味し、総括評価を行う			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 医歯薬出版 歯科衛生士教本「歯科診療補助」 医歯薬出版 新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取扱い」 医歯薬出版 新歯科衛生士教本「歯科材料の知識と取扱い」 医歯薬出版			
≪実務経験≫ 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・ 歯科診療補助業務を担当。 歯科医院での実務経験をもとに歯科診療補助について講義・実習を行います。			

科目名	歯科診療補助	授業担当者	饒波 侖奈・大山 こずえ
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 72時間
≪学習目標≫ 歯科臨床の実践に必要な歯科診療補助の知識、技術、態度を習得し 歯科材料の取り扱い方法を取得する			
≪到達目標≫ 1 歯科用石膏の特徴・種類・用途を説明できる 2 アルジネート印象材の特徴と用途を説明できる 3 アルジネート印象材の練和と管理ができる 4 アルジネート印象採得とその対応ができる 5 スタディーモデルの作製方法を理解する 6 寒天印象材の使用方法を理解する 7 歯科衛生材料の作製ができる 8 セメント練和操作ができる(仮封・合着)			
≪授業計画≫			
回	授 業 内 容		
1	合着セメント		
2	衛生材料作製		
3～5	アルジネート印象採得(顎模型・片顎・上下顎)		
6～9	アルジネート印象採得相互実習 (スタディーモデル作製)		
10～11	連合印象(顎模型 片顎)		
12～13	仮封材取り扱い		
14	実技試験対策		
15～17	実技試験		
18	後期まとめ・試験対策		
≪評価方法≫ ・定期試験(2回)により判定する 前期試験:50% 後期試験:50% 前期・後期試験は、各々100点満点とし、60点に満たない場合は再試験を行う ・実技試験、課題提出、出欠状況、授業態度を加味し、総括評価を行う			
≪教科書・参考文献≫ 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 医歯薬出版 歯科衛生士教本「歯科診療補助」 医歯薬出版 新歯科衛生士教本「歯科器械の知識と取扱い」 医歯薬出版 新歯科衛生士教本「歯科材料の知識と取扱い」 医歯薬出版			
≪実務経験≫ 歯科衛生士として歯科診療所に勤務、主に歯科予防処置業務・歯科保健指導業務・ 歯科診療補助業務を担当。 歯科医院での実務経験をもとに歯科診療補助について講義・実習を行います。			

科目名	感染予防学	授業担当者	大湾 知子
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 16時間
<p>《学習目標》</p> <p>市中および施設内感染の複雑・多様化に伴い、主体的に感染予防の実践ができるよう感染予防の知識・技術を修得することは重要である。感染の発生要因、機序および感染予防の原理・原則を理解し、演習をとおして清潔操作ができるようになる。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・医療従事者における標準予防策・感染経路別予防策が理解できる。 2. 感染予防策の基本を理解し、それに伴う感染予防行動と健康管理の意義がわかる。 3. 感染予防策と滅菌・消毒・洗浄の重要性が理解できる。 4. 口腔内常在菌に対する口腔ケアの必要性が理解できる。 5. アメニティと環境整備そして廃棄物処理の重要性が理解できる。 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	患者主体の感染予防対策 ①患者への情報提供 ②患者の受け入れ ③守秘義務 ④感染している歯科医療従事者		
2	感染予防対策の基本 ①感染リスクと対策 ②感染経路別予防策 ③標準予防策 ④ハイリスク感染患者と歯科治療		
3	手指衛生 ①手洗い・手指消毒 ②手袋着用 ③希釈液の作り方の計算と演習		
4	歯科診療における感染予防対策の実践 ①歯科診療における感染リスク ②歯科診療室における感染予防対策		
5	滅菌・消毒・洗浄の基本 ①歯科診療における感染リスク ②消毒薬使用時の基本と留意点 ③熱消毒 ④洗浄		
6	器具・器機・印象体などの滅菌・消毒・洗浄の基本と実際		
7	口腔常在菌叢と口腔ケア ①常在細菌叢、歯周病原性細菌 ②うがいと口腔内消毒		
8	アメニティと環境整備 ①診療部門の清掃 ②診療環境と患者の安心		
<p>《評価方法》</p> <p>原則として、定期試験により評価する。授業中に単語試験や小試験を課して参考とする。試験結果、レポート提出、授業態度、出席状況などの総合評価を行う。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「歯科医療における感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄」:ICHG研究会(編)医歯薬出版</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>1996年度日本環境感染学会海外派遣員で感染対策看護師業務研修(11病院を1ヶ月間)、2005年第1回日本環境感染学会賞受賞。1997年～現在迄、琉球大学医学部附属病院感染対策室感染対策看護師併任。2013～2014年度、沖縄県看護協会感染管理認定看護師教育課程主任教員。2018年中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校教員(微生物学担当)10年勤続感謝状授与。</p>			

科目名	歯科器械・材料学	授業担当者	山里 理恵子
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間
<<学習目標>> 歯科臨床現場において適切な対応ができるように、歯科器械・材料の種類目的及び用途について知識を習得する			
<<到達目標>> ・一般診療用器械について十分に理解し、歯科疾患の診査と処置の流れを具体的に説明できる ・歯科材料の組成・特性・取り扱い方を説明できる ・予防歯科・高齢者歯科・先進歯科医療等の社会的ニーズに則した知識、技術に必要な器械と材料について理解を深める			
<<授業計画>>			
回	授 業 内 容		
1	☆歯科機器学☆ 歯科診療における機器の概説、一般診療用機器		
2	滅菌・消毒用機器 歯科用画像診断装置		
3	歯科衛生士にかかわる機器、検査・診断用機器		
4	治療用機器①		
5	治療用機器②		
6	治療用機器③		
7	治療用機器④ 歯科技工用機器		
	☆歯科材料学☆		
8	歯科材料と衛生士、歯科材料の基礎知識		
9	歯科衛生士にかかわる材料		
10	印象材、模型用材料		
11	合着材・接着材		
12	成形修復材		
13	仮封材、暫間修復材と仮着用セメント		
14	ワックス、金属、セラミックス		
15	その他の歯科材料 まとめ		
<<評価方法>> 定期試験、レポート提出、出欠状況、授業態度などを総括的に評価する			
<<教科書・参考文献>> 最新歯科衛生士教本 「歯科機器」「歯科材料」 (医歯薬出版)			
<<実務経験>> 歯科医師として与那原中央病院歯科・口腔外科に勤務。主に入院病棟・訪問診療を担当。歯科診療の経験をもとに講義を行います。			

科目名	臨地・臨床実習	授業担当者	指導教員
開講時期	1年 後期	単位・時間数	1単位 51時間
<p>《学習目標》</p> <p>歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場及び地域保健活動などの場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術及び態度を身につける。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>＊臨床実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師からの指示内容を踏まえた対応ができる ・プライバシーを配慮した態度で応接できる. ・対象者の守秘義務を遵守できる. ・診療室のルールを理解した行動ができる. ・医療安全管理に配慮した行動ができる. ・感染予防(消毒・滅菌、手指消毒等)対策に応じた行動ができる. <p>＊臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の守秘義務を遵守できる. ・スタッフ(多職種)との協働、連携した対象者へのサービスができる. ・施設等のルールを理解した行動ができる. 			
実習スケジュール			
回	実 習 内 容		
1	歯科診療所実習		
2	口腔保健医療センター		
3	障害者施設		
4	高齢者施設		
5	幼稚園		
<p>《評価方法》</p> <p>臨床実習評価表、出席状況、課題提出により評価する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>歯科衛生士教育サブテキスト 「臨床実習HANDO BOOK」(クインテッセンス出版) 「歯科衛生士のための最新歯科用語辞典 ポケット版」(クインテッセンス出版)</p>			

科目名	情報リテラシー	授業担当者	上地 弘美
開講時期	1年 後期	単位・時間数	2単位 30時間
<p>《学習目標》</p> <p>歯科医療や保健衛生の情報収集・分析・報告等に要する基礎能力を修得する。</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>コンピュータ操作の基本を理解し、Word・Excel・PowerPointの一般的・実務的な操作が出来ることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基本操作ができる。 2. 文書や報告書を作成する基礎技能がある。 3. 諸計算を実施する基礎技能がある。 4. プレゼンテーション資料を作成する基礎技能がある。 5. 情報セキュリティ、情報モラル、著作権に関する基礎事項を知っている。 <p>《備考》</p> <p>復習を励行すること。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
0	アンケート		
1	PCの基本操作(PC基本構成とOS、フォルダの概念、データの種類、周辺機器)		
2	Microsoft Word:日本語入力の基本、タイピング、ファイル保存		
3	Microsoft Word:タイピング、ページ設定、文字の装飾、		
4	Microsoft Word:タイピング、表を活用した文書作成(表作成、装飾、スタイル)		
5	Microsoft Word:タイピング、画像や図形を活用した文書作成(画像・図形の活用)		
6	Microsoft Word:練習問題(上記演習内容の総合問題)		
7	Microsoft Word:練習問題(上記演習内容の総合問題)【技能中間試験:上記学習内容】		
8	Microsoft Excel:基本操作(文字入力・四則計算・簡単な関数、装飾、絶対参照)		
9	Microsoft Excel:基本操作(グラフ、関数、上記演習内容の練習問題)		
10	Microsoft PowerPoint:基本操作(プレゼン作成の流れ、スライド作成、装飾と図形)		
11	Microsoft PowerPoint:基本操作(グラフ、SmartArt、アニメーション、表作成)		
12	情報モラル&情報セキュリティ、著作権		
13	文書作成実践:Microsoft Word(上記演習内容を活用した文書作成実践)		
14	文書作成実践:Microsoft Word(上記演習内容を活用した文書作成実践)		
15	文書作成実践:Microsoft Word(文書作成実践) 【技能中間試験:上記学習内容】		
Ex	【筆記試験:情報モラル&セキュリティ、著作権、PC基本】		
<p>《評価方法》</p> <p>単位認定試験では、授業において演習した事項を実施させて修得度を評価する。</p> <p>評価は単位認定試験(技能と筆記)に加えて出欠状況や授業態度等も勘案し、総合的に行う。</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 30時間でマスター Office 2013 (実務出版:ISBN 978-40407-33263-6) 2. オリジナル配布資料・準備サイト 3. 情報モラル&情報セキュリティ<改訂2版> (FOM出版:ISBN 978-4865103489) 			
<p>《実務経験》</p> <p>PC系インストラクター、講師としてリンクプラス株式会社に勤務。MS Office 認定インストラクター、日商検定対策講座講師としての実務経験をもとに情報リテラシーについて 講義を行います。</p>			

科目名	コミュニケーション概論	授業担当者	松園 あかね
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>社会生活を送るために必要なコミュニケーションスキルの重要性を理解し、自分の思いを発信すること、相手の思いを聴くこと、さまざまなことに目を向け「気づく」ことができるようになること。</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の声に耳を傾け、思いや気持ちを聴きとることができる(傾聴) ・自分の伝えたいことを的確かつ、相手が受け取りやすいように発信することができる ・なぜ歯科の現場でコミュニケーション力が大切か理解できる ・学んだことを実践し、自分なりの「気づき」を得ることができる 			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1-2	コミュニケーションとは		
3-4	なぜコミュニケーションが大切なのか		
5-6	「聞く・聴く・訊く」のコミュニケーション(実践)		
7-8	「伝える・伝わる」自分の思いを伝えるコミュニケーション		
9-10	まとめ		
<p>《評価方法》</p> <p>授業ごとに行うミニレポート、期末のレポート、出席状況により評価を行う</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>プリント資料(適宜)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>・企業内研修講師として8年間、新入社員のほか、社員のスキルアップ、リーダー社員の昇格時の研修などを担当。その後、フリーランスのキャリアコンサルタント、講師として、10年間社員研修の他、高校生、専門学校生、大学生向けのビジネスマナー研修等を実施。様々な現場での経験をもとに社会人として必要なコミュニケーション能力について講義を行います。</p>			

科目名	接遇対応	授業担当者	久保田 照子
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 20時間(内12時間担当)
<p>《学習目標》</p> <p>医療に関わる者として、持ち続けていかなければならない(医の心)を持った人を育てる。 (人材を育成する)</p>			
<p>《到達目標》</p> <p>医療保健従事者として、ゆるぎない信念を持ち患者さんの立場で物事を考え、笑顔と優しさに満ちた人としての感性を磨き、暖かい人材を育てる。</p>			
《授業計画》			
回	授 業 内 容		
1	<p>学生生活と社会人との違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての自覚 ・接遇マナーの必要性 		
2	<p>日常生活の生活習慣の基本を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ(返事の仕方) ・時間を守る ・約束を守る ・TPOについて 		
3	<p>美しい身のこなし方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢(立ち方、座り方、歩き方) ・挨拶言葉(お辞儀の仕方) 		
4	<p>礼儀作法(心の時代の心とは)</p>		
5	<p>豊かな人間関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内の出入りの仕方 ・自己紹介 		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験において総括評価を行う</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>参考資料を適宜紹介</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>昭和49年久保田チャームスクール設立。着付けや礼儀作法、モデリングを指導。 沖縄ツーリズム・那覇看護専門学校等での実務経験をもとに接遇対応について講義を行います。</p>			

科目名	接客対応	授業担当者	河本 真紀子
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位20時間 (内8時間担当)
<p>《学習目標》</p> <p>社会人として求められる心構え、ビジネスマナー、接客スキルを修得する</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを理解し、身だしなみや基本動作を修得する ・接客用語を使うことができる ・電話対応、クレーム対応が出来る ・チームワークを理解し、報告・連絡・相談ができる 			
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	社会人としての心構えを理解し、社会人としてふさわしい身だしなみ・立ち居振る舞いが実践できる。		
2	第一印象を整え、接客者として好感を持たれる動作、非言語表現ができる。		
3	接客用語を使うことができる。電話対応ができる。		
4	障がいをもつ非助言者とのコミュニケーションができる。チームワーク、報連相ができる。		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験において、総括評価を行う 実技試験を総括評価に加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション」(ウィネット) 「実践ビジネスマナー」(ウィネット) 「接客・接客のためのユニバーサルサービス」(日本能率協会マネジメントセンター)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>客室乗務員としてJTA日本トランスオーシャン航空に12年勤務。接客及び後輩育成の実務経験を基に、接客対応の講義を行います。</p>			

科目名	看護概論	授業担当者	國吉 恒子
開講時期	1年 前期	単位・時間数	1単位 20時間
<p>《学習目標》</p> <p>看護学を学び患者の精神的面をも含めた全身状態に目を向け歯科医療ができ、多様化する高齢社会の歯科医療を担う</p>			
<p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院における歯科衛生士の役割を理解する ・日本の看護、欧米の看護の歴史を学び広い視野で看護概論を学ぶ ・看護とは何かを学ぶ ・歯科衛生士が、知っておくべき看護技術を修得し実施できる ・歯科衛生士に必要な看護実務を学ぶ ・地域医療活動における歯科衛生士の役割を学ぶ 			
<p>《授業計画》</p>			
回	授 業 内 容		
1	病院における歯科衛生士の役割と活動の場を学ぶ		
2	看護の歴史を学び看護とは等看護論の概論を学ぶ		
3	看護の実際		
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術、バイタル測定を学び、自分の健康管理もする		
5	摂食～について学ぶ		
6	歯科衛生士に必要な看護実務		
7	入院加療を要する患者の看護		
8	地域医療活動における歯科衛生士の役割		
9	福祉チームとの連携		
10	関連法規を学ぶ		
<p>《評価方法》</p> <p>定期試験で総括的評価を行う</p> <p>レポート提出、出欠状況、授業態度などを加味する</p>			
<p>《教科書・参考文献》</p> <p>「歯科衛生士の看護学大意」(医歯薬出版)</p>			
<p>《実務経験》</p> <p>沖縄リハビリテーション福祉学院(14年)、那覇看護専門学校(7年)、沖縄赤十字病院(5年)等で勤務。この実務経験をもとに講義いたします。</p>			